

# 郷土の誇り——高麗郡建郡1300年

高麗郡建郡1300年記念事業委員会  
会長 大野松茂



私たちの郷土狭山に、高麗郡が置かれて来年1300年を迎えます。国をあげて先には「平城京遷都1300年事業」が盛大に行われ、昨年は古事記・出雲大社がともに1300年の節目を祝いました。日高市を中心とした私たちの地域には、これに匹敵する先人が築き上げて来た尊い歴史と文化があり、そのことに感謝するとともに、未来に引き継ぎ、更なる発展を期して「高麗郡建郡1300年記念事業」を推進しています。

「続日本紀」に「靈龜二年（716年）五月十六日駿河・甲斐・相模・上総・下総・常陸・下野の七国の高麗人千七百九十九人を武蔵国に集め高麗郡を置く」とあります。移住した彼らは郡役所を建て、優れた技術と努力で、未開だった高麗郡の地を開拓し、道路を整備し、林野を拓き、生活の基盤を整え、新しい産業を起こしました。

紀元前から668年まで、中国東北部から朝鮮半島にかけて高句麗という国が栄えましたが、その経過の中で高句麗の人々が、日本に渡り渡来人として暮らすところとなり、大和朝廷は律令制のもと関東一円に住んでいたこれら高句麗の人々を武蔵国に集めて高麗郡を設置しました。初代郡司に高句麗王族の高麗王若光が就任しました。若光は666年日本への支援を求めて特使として日本に来ましたが、668年高句麗は亡び、日本にとどまっていたのでした。日高市内には若光を祀った高麗神社があり、若光直系の子孫が代々宮司を務めて、現宮司は60代目にあたります。聖天院には若光の墓とされる高麗王廟があります。また大寺廃寺・高岡廃寺・女影廃寺などの遺跡や遺物が発掘され、歴史を証明しています。県西部で盛んだった養蚕・麦の栽培・製紙・瓦・鍛冶など渡来人との関係が深いと言われています。

明治29年、新しい町村制によって高麗郡は入間郡に編入されてその名も消えました。その当時の町村は、飯能町・精明村・南高麗村・加治村・東吾野村・原市場村・元加治村・水富村・柏原村・霞ヶ関村・名細村・鶴ヶ島村・高麗村・高麗川村・高萩村でしたが、昭和の大合併により、日高・飯能・人間・狭山・川越・鶴ヶ島・坂戸・毛呂山・越生に。所沢・川島も加わって、高麗郡建郡1300年記念事業委員会を構成して、その意義を高めて多彩な活動を展開しています。更に事業の進展を願って「一般社団法人 高麗1300」を設立しました。

歴史の上では、未解明の課題も多く、研究者の皆さんを中心に「高麗浪漫学会」も設立されて、活発な取り組みがはじまっています。

当市内の水富・柏原は、かつて高麗郡の地域でした。若光の晩年は白ひげをはやしていたので「白ひげ様」といわれたとの伝説も残り「白鬚神社」が祀られています。

高麗郡という輝かしい歴史・文化・伝統は郷土の誇りです。「渡来から未来へ」、地域の皆様のご理解ご支援ご協力を頂いて記念事業を成功させたいと願っています。

皆様方のご参加をお願い致します。

おおの まつしげ：1936年入間郡入間川町（現狭山市）に生まれる。狭山市立中央公民館長を経て、埼玉県議会議員（2期）、狭山市長（2期）、衆議院議員（4期）を歴任。平成21年秋の叙勲で旭日重光章を受賞。また同年、狭山市名誉市民の称号を授与される。平成27年度より狭山市文化団体連合会顧問。

## 編集後記

5月に入って、真夏日の連続で水不足、農家は勿論、家庭菜園も同じで、じゃがいもも葉が黄色くなってがっかり。

総会が終り、事業計画で“会報の紙面充実と活用”が重点項目となりました。会報チームとしても、更に頑張ります。

顧問に就任の大野松茂さん。早速寄稿文をお願いしました。今年、高麗郡建郡1300年のフォーラムでパネリストを務めるなど、地域の歴史、地理にも明るく、これからもよろしくお願ひしたいと思います。（高沢正夫）